

労働組合の原点にたち反動攻撃をうち破る



84. 9. 3

No. 1733

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

第9回定期大会の成功をかちとろう

動労千葉は九月十二、十三日の二日間、鴨川市において第九回定期大会を開催します。

「定員法」を上回る10万人の首切りのうえに、国鉄「分割・民営化」攻撃に直面するなかで迎える今大会は、決定的に重要な意義をもっています。

全組合員の力で大会の成功をかちとり、国鉄労働運動解体攻撃と対決し勝利できる「三里塚・国鉄を基軸に反動中曾根と対決する」路線の強化、発展をかちとろうではありませんか。

首切り「三本柱」粉碎、「分割・民営化」阻止の本格決戦へ！

国鉄「分割・民営化」攻撃は、財界・臨調・国鉄再建監理委員会に加え、政府・自民党、国鉄当局が公然と「分割・民営化」を主張することによって、いよいよ本格化してきています。

8月10日、国鉄再建監理委員会は「第二次緊急提言」を発表しました。

その内容は「分割・民営化」を基本に、①現行経営形態の間に二四五〇〇人を数倍する「過員」が発生する要員合理化を行い、私鉄並の要員配置を実現する。②用地売却により長期債務の償還を図り、不足する分については、国民の負担とする。③地交線、貨物輸送、バスは国鉄から切り捨てる。というものです。

84年度「赤字」一兆六六〇〇億円、長期債務一九兆九八〇〇億円という国鉄経営の破綻状況、さらには「59・2」を契機とする膨大な「過員」問題が「分割・民営化」にはずみをつけ、攻撃を凶暴化させています。

しかし何よりも、国鉄危機が日本帝国主義の体制的危機の集中的表現として解決不能であるがゆえに、一切の矛盾と犠牲を労働者人民に転嫁し、りきろうとする攻撃なのです。

当局「動労革マル連合を粉碎し、基地統廃合攻撃を阻止しよう

国鉄当局の具体的攻撃は、「過員解消」と称する退職強要、休職、出向を「三本柱」とする実質的生首切り攻撃、「60・3」ダイ改時における基地統廃合、運用合理化、改悪動乗勤制度の実施、台検廃止をはじめとする検修合理化攻撃、さらには「職場規律」攻撃など、あらゆる手段を行使してかけられてきています。

とりわけ基地統廃合問題を利用し、動労「本部」革マル、当局一体となった悪らつな組織破壊が策動されています。

動労「本部」革マルは「職場と仕事を守るため

に骨身を削って働こう」なる反動路線のもと、「労働条件を下げてもいいから仕事をよこせ」と要求し、「動労東京地本」のごときは周辺局の業務を取り上げることで自分達だけの「職場と仕事を守ろう」としています。

これは当局にとって願ってもないことであり、まさに「労・使」一体となって「総武快速線、緩行線、我孫子線、京葉線をよこせ」と要求してきているのです。

三里塚二期着工断固阻止！ 10・10かつてない総力決起体制築こう

87年までに国鉄労働者三人に一人の首を切ろうとする攻撃をまえに、われわれのとるべき態度は明白です。

労働組合の原点にかえり、一人の首切りも許さないために闘うということではなければなりません。日本の労働運動総体が中曾根内閣の理屈ぬきの凶暴な攻撃に度胆をぬかれ、ずるずる後退、屈服を深め、動労「本部」革マルにあつては自民党の庸兵として登場してきている否定すべき現実の中で、三里塚・ジェット闘争を貫徹した動労千葉の路線の全国的拡大が一切のカギです。

第九回定期大会の圧倒的成功をかちとり、着実に前進しようではありませんか。

第9回定期大会 会場

日時・9月12日(水) 10時～13日(木) 17時

会場・鴨川市・鴨川館 (国鉄鴨川駅下車(分))

活発な職場討議と 圧倒的な傍聴体制を！